

令和小学校授業改善のポイント(R06全校版)

R061021

<学校教育目標>

未来社会を担う子
よく考え表現する子
◎豊かな心をもつ子
たくましく鍛える子

<学校経営方針より>

- 基礎基本定着のための個に応じた指導
- 課題意識を磨く体験的な学習、問題解決的な学習の充実
- 指導と評価の一体化(指導と理解したことの違いを意識)
- 評価規準による見取りで、2学期制の趣旨を生かす

<授業力向上の基本方針(全教科等で)>

子どもの資質、能力を伸ばし評価するために「授業力」の向上を図る。(授業力→「教材解釈、開発」「指導技術・授業展開」「指導・評価計画作成改善」「統率力」「使命感、熱意、個性」「児童・生徒理解」)
そのために学年学級を開き、公開授業を提供し合い、互いに参観、外部OJT等も生かして磨き合う。

<校内研究>自他を大切に、共によりよく生きようとする児童の育成

～みんなが“たのしい”道徳の授業を通して
◎授業にスポットを当て研究内容を「発問」に焦点化する。昨年度の3つの柱を踏まえたキーワード→・問題意識・中心発問
・自己を見つめる
(自分にとってのよりよく)

主体的、対話的で深い学びのために

<「令和小スタイル」から>

- ①「しっかり考える」 →考えがまとまったら、だまって手を挙げる。
- ②「返事」と「話す」 →「ハイ」と返事をして最後まで話す。
- ③「話を聴く」 →発言している人の方を向いて、心を寄せて最後まで聴く。

資料の工夫
より効果的で分かりやすい
資料の活用

発問の吟味
より具体的で考えやすく
分かりやすい発問の吟味

表現活動の工夫
子どもが表現しやすい手立て
(書く活動、劇化、討論、ICT等)

指導と評価の充実
授業の中での一人ひとりの発言の受け止め、価値付け、助言

個別最適化の視点
○特別支援教育
・見通しをもたせる・個別支援
・掲示物等の配慮 特性の理解等
○ICT・一人一台端末
・課題、学習方法等の個別化
・道具としての活用の意識

授業を子どもと共につくる

指導体制の工夫
学年TT指導・少人数指導・
ゲストティーチャー参加等の工夫

場の工夫
ねらいに応じた学習形態
(グループ、座席、発表形式等)

板書の工夫
子どもが自分の考えをまとめる
ための分かりやすい板書
子どもと共に板書をつくる

地域の活用
学校や地域のことを考える学習
「ひと・もの・こと」とかかわる
地域、保護者のコーディネート等

子どもの意見を取り入れる
○子どもの思っていること、子どもの考えていることを感じる、つかむアンテナを広く高く張る。
○子どものアイデアを生かす。
○子どもに華をもたせる。
○子どもの手柄にする。 等

- 自分の考えを進んで表現する
- 考えを比較・関連させて考える
- よさを取り入れ、自分の考えをまとめる
- 自分の考えに自信をもつ